

千葉市公共施設等総合管理計画の中間見直しにおける主な意見等への対応のまとめ

No.	意見の概要	対応
1	<ul style="list-style-type: none"> 本編第2章「公共施設等を取り巻く現状及び課題」のインフラ施設についての記述を見ると、ここに書いてあるのはどちらかという対策的なことだと思う。第2章までは悲観的に書いて、対策は楽観的にいろいろな対策がありますよと書いた方が良くと思う。 <p>【山本副委員長】(令和元年度 第3回委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-4の20ページのとおり、第2章の最後に、「現状と課題のまとめ」の項を追加しました。
2	<ul style="list-style-type: none"> 全市一体となって向かっていくのであれば、計画目標だけで章立てしても良いのでは。 <p>【鈴木(雅)委員】(令和元年度 第2回委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-4の22ページのとおり、計画目標だけで章立てする構成に修正しました。
3	<ul style="list-style-type: none"> 数値目標の設定は必要である。設定にあたっては細分化して設定すれば所管課の責任の所在が明確になり、進行管理をしやすくなるのではないか。 <p>【鈴木(潔)委員、山田委員】 (平成30年度 第1回委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-4の22ページのとおり、今後10年間における経費ギャップ比(必要額に対する投資額の比)を約1.0倍~1.1倍に改善するという目標を設定しました。目標の達成に向けては、約18万㎡の所有床面積の縮減に取り組みます。また、学校等の主な施設については、参考指標として、個別に所有床面積の縮減目安を提示しています。
4	<ul style="list-style-type: none"> 公共建築物の目標使用年数については、構造によって異なるため、一律に伸ばせばよいというものではなく、安全性を第一に決めるべき。 <p>【鈴木(潔)委員】 (平成30年度 第1回委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-4の30ページのとおり、計画的保全対象施設については、築後60年までの使用を基本とし、建物劣化度調査の結果等を踏まえながら、個別の施設の状況により目標使用年数を設定していきたいと考えています。
5	<ul style="list-style-type: none"> 新規施設については、どのような調整を行うのかといった説明がないと、財源が足りるのか不安になってしまう。 <p>【鈴木(潔)委員】(令和元年度 第3回委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公共建築物については、参考資料1-4の49ページのとおり、新規整備は原則行わないこととしています。インフラ施設については、69ページのとおり、新規整備を行う際には、将来的なコスト増額分を縮減できるよう、新たな対策の検討を併せて行うこととしています。
6	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設等の維持管理・更新等に係る中長期的な経費の見込みについて、現在要している経費(直近5か年平均59.5億円/年)は多いのか少ないのか、つまりやるべき事業をしっかりと行っている状況なのか、それとも事業を行わずに積み残しの状態になっている状況なのか、しっかりと検証するべきだと思う。 <p>【稲生委員長】(令和元年度 第2回委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-4の87ページのとおり、本市では、平成21年度に発出した「脱・財政危機宣言」等に基づき、建設事業債の発行抑制等の取り組みを行ってきましたが、平成29年9月に、「脱・財政危機宣言」を解除しました。今後は、公共施設の老朽化対策等のため、財政健全化路線を維持できる範囲で、建設事業債の発行規模を拡大していく予定です。

No.	意見の概要	対応
7	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設等の維持管理・更新等に係る中長期的な経費の見込みにおいて、経費ギャップ（不足額）のシミュレーションをしているが、将来的に生産年齢人口が減少するにつれて税収も減少する可能性がある。将来的な維持管理・更新等に係る経費の見直しのほかに、投資可能額にもどのような変化が起きるのか随時見直していった方が良い。 <p>【山田委員】（令和元年度 第2回委員会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-4の96ページのとおり、PDC Aサイクルの活用により、今回の改訂後も、3年を目途に計画の検証、見直しを行っていきます。
8	<ul style="list-style-type: none"> 今回は中間見直しであり、現行計画の改訂版であるため、現行計画の対策内容やその成果をしっかりと踏まえる必要があると思う。これまでの資産経営に関する取り組みの成果をまとめて、周知できると良いと思う。 <p>【稲生委員長】（令和元年度 第2回委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民からは、1つの事例だけでなく、2つ、3つと事例があるとわかりやすいと思うので、可能な範囲内で対応をお願いしたい。 <p>【山本副委員長】（令和元年度 第2回委員会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-4の98ページのとおり、巻末の資料編の中で、これまでの取り組み事例を掲載し、周知を図ります。 <ol style="list-style-type: none"> 文化交流プラザの廃止 蘇我コミュニティセンターの整備 中央区役所移転と美術館の拡張 旧千葉市ユースホテルの実施主体の変更 海辺のまちづくり （市有地を使った民間活力の活用） 学校跡施設の利活用（磯辺第二中跡施設） 公共建築物の大規模改修 （都賀コミュニティセンター、勤労市民プラザ） ちばレポによる課題の共有と解決 ドローンを活用した点検調査 三大都市圏における水平連携 （保育事業を中心とした連携）
9	<ul style="list-style-type: none"> 施設グループごとにどのくらいの経費がかかっているかの、実績や内訳があると良い。 <p>【稲生委員長、湊委員】 （令和元年度 第3回委員会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-4の117ページの資料編の中で、公共建築物とインフラ施設に分けて、現投資額（595億円）の内訳を提示しました。
10	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設等の維持管理・更新等に係る中長期的な経費の見込みについては、これまでの資産経営に関する取り組みの成果を検証したうえで試算するべきだと思う。 <p>【稲生委員長】（令和元年度 第2回委員会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-4の123ページのとおり、今回の改訂では、これまでの資産経営に関する取り組みとして、資産の総合評価結果に基づいた対策による効果額を試算しています。
11	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設を新しく造るというよりも、機能（事業）に補助金を出す等、機能に着目することにより公共施設を増やさないような考えが重要である。 <p>【山田委員】（令和元年度 第2回委員会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1-2の2ページのとおり、本計画と合わせて改訂する資産経営基本方針（案）の「基本的な考え方」でも提示していますが、今後は、施設重視の考え方から機能優先へ考え方を転換し、資産の効率的な利用を推進していきます。
12	<ul style="list-style-type: none"> 市の取り組みを、地域住民や議会に対し、どのようにPRした方が効果的なのかを検討することが重要である。 <p>【鈴木（潔）委員】（令和元年度 第2回委員会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ワークショップの開催により周知を図るとともに、新たなPR方法についても検討していきます。